

人間性豊かな関係性と社会の創生に向けて

当センターの前身である、南山短期大学人間関係研究センターが設立されたのは1977年でした。今年度は設立から40周年ということになります。この40年間で、公開講座の受講者はのべ8200人を超え、発行した研究紀要は本号が33冊目です。諸先輩の努力によって、私たち人間関係研究センターは現在、「人間関係や体験学習を学ぶなら南山」と評価していただけるようになりました。

人間関係研究センターでは、公開講座の開催などの「実践」をしています。そして、この紀要の発行や研究会の実施、研究資料の収集を中心とした「研究」活動を行っています。クルト・レヴィンのアクションリサーチという方法があるように、「実践」と「研究」は分けることができないものですが、本センターはこれまではどちらかというと、研究よりも実践に比重が置かれていました。

本センターは「研究」センターなので、「私たちは何のためにどのような研究を行っているのか？」を明確にするために、昨年度から今年度の初めにかけて、本センターの研究目的について研究員で話し合いました。そして、本センターの研究目的を以下の形にしました。

「広く学際的視点にたった人間関係研究」として、人間関係に関する理論研究、人間関係へのアプローチ方法の実践研究、人間性豊かな関係性と社会の創生に向けた応用研究、に取り組んでいく。

真実の探究を通して新たな知識を見出すことが研究ですが、本センターが目指しているのは、単に新たな知識を見出すだけではありません。究極的な目的は、「人間性豊かな関係性と社会の創生」です。今の日本社会は、「人間性豊かな関係性と社会」になっているのでしょうか？組織の中で働くことで、メンタルヘルスの不調をきたす、自殺や過労死に至る、などの悲惨な出来事が起こっています。幸せになるためにお金を稼いで働いているのに、働くことで人が不幸になっている、このような現状は、「人間性豊かな関係性と社会」とは到底言えません。

「人間性豊かな関係性と社会の創生」には、人が尊重され、ともにある関係性が重視されるという、ヒューマニスティックな価値観が根底にあります。個性豊かな1人ひとりが互いに尊重されてともにあること、この実現は容易なことではありません。しかし、これからの未来は確実に、経済的価値がより重視され、個業化がさらに進むでしょう。そのような未来に向けて、ヒューマニスティックな価値と協働関係の重要性を唱導することが、チェンジエージェントとしての本センターの使命だと考えます。

本号の特集は「グループでの学び」です。このテーマは、上記の研究目的のうち、特に「人間関係へのアプローチ方法の実践研究」に位置づけることができます。グループでの体験から私たちは、ともにある関係性をグループの中でいかに築き、育んでいくかを学ぶことができます。グループでの体験学習を通して、自分自身の関わり方に気づき、ともにある関係性の重要性や、関係づくりのための働きかけについて学ぶことを通して、「人間性豊かな関係性と社会」に向かうことが可能となります。また、公開講演会の講義録には、どんな生徒でも人として尊重される学校づくりを实践された、大空小学校元校長の木村泰子さんによる語りが掲載されています。本号が、人間性豊かな関係性と社会の創生に向けた、ほんの小さな一助となれば幸いです。